

令和4年度 第3回 曳馬中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月14日（火） 10時00分から12時00分まで
- 2 開催場所 曳馬中学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 芳次、熊谷 義廣、佐藤 洋子、太田 悦則、
鈴木 哲也、池村 俊典
- 4 欠席委員 高山 良子、平間 良明
- 5 オブザーバー 大平 智史（曳馬協働センター）
- 6 教育委員会 清水 悠（教育総務課）
- 7 学 校 玉木 言明（校長）、平原 政和（教頭）、牧野 知子（教頭）、
鈴木 亮（主幹教諭・CS担当）、今田 明子（CSディレクター）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - (1) 議長の選出について
 - (2) 令和4年度学校評価の自己評価について
 - (3) 令和5年度学校運営基本方針の説明
 - (4) 令和4年度学校運営協議会自己評価について
 - (5) 令和4年度職場体験等地域人材活用について
 - (6) 夢育やらまいか事業について
 - (7) 令和5年度いじめ対策基本方針について
 - (8) その他
- 10 会議記録作成 CSディレクター 今田 明子
- 11 会議記録

熟議に先立ち、会長挨拶、校長挨拶を行った。

(1) 議長の選出について

司会鈴木亮から、議長の選出について今回も太田委員にお願いしてよいか確認したところ、全員異議なくこれを承認した。

太田議長より委員総数8人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、議会在りて立している旨の報告があった。

(2) 令和4年度学校評価の自己評価について

議長の指示により、鈴木亮から、別紙資料に基づき説明があった。

委員からは以下の発言があった。

○「確かな学力」向上プランについて

【スマホ等との関わり】

スマホゲームに費やす時間等に対する指導はしているか（芳次委員）

→年に1度スマホの使い方に関する講座を行っている。その他は、都度、学年集会や放送等で指導を行っている（亮）

【タブレット端末の活用】

リモート授業の実績はあるか？（哲也委員）

→コロナ関連の欠席者、校内適応教室、長期欠席者に向けて実績あり。家庭でWi-Fiが使えないのは数軒。今は黒板を映して、授業の音声を流す一方通行だが、今後はプリントの配信や双方向のコミュニケーションを目指していく（亮）

→学級閉鎖等に備え、教員にさらなる研修を行っている（玉木校長）

【質問できる時間・環境】

授業で理解できなかったところを質問できる環境はあるか？（佐藤委員）

→授業後や放課後に対応している。3年生では勉強法を聞きに来る生徒もいる。一方自分から聞きに行けない生徒もいる。面談等で発覚すれば、教科担当につなげている（亮）

教員に質問を受けられる時間があるのか？先生を女子にとられ男子は話しかけられないなど、結局話しかけられる人が強い。後でと言われても先生は部活に行ってしまう。先生によっては授業の10分を質問時間にしてくれる方もいる（太田委員）
→休み時間は10分しかなく限られる。十分な時間があるとは言えない。私個人としては授業終わりに振り返りカードを書かせて、次の授業でのフォローに努めている（亮）
→補習授業などはないようだが、理解できていない生徒のフォローについて考えてほしい（太田委員）

【学習の習慣付け】

家庭学習の習慣化に関して学校がしていることはあるか？（哲也委員）

→曳馬中学区で学年×10分の家庭学習をしましょうという取り組み・周知をしている（中学は7～9年生と考える）。書き取り等の課題は出しているが生徒が提出しないこともある。次年度、課題を予め家庭にも知らせる計画を立てているところ（亮）

【学習の理解度アップのために】

生徒の理解度の判断はどのようにしている？（芳次委員）

→年4回の定期テストの他、授業内で小テストや単元テストを取り入れ理解度を測っている。ALTが入った授業で、英語のスピーチテストも行っている。タブレット端末での一問一答形式の小テストも始めている。タブレットでは、採点がすぐにできる一方、記述式での出題は難しい。

入試なども記述式の問題が増えている。記述式の問題に答える力は、人との対話や議論を通じてでないといけない。家庭でもコミュニケーションをとらせるような家庭学習を出題してはどうか（池村委員）

→授業で生徒同士話し合う場を増やしている（亮）

【地域との関わり】

下田で高校生が地域のお年寄りと話ず機会を設けているのをテレビで見た。フォークダンスのように相手が次々に変わり、いろいろな人とコミュニケーションを取ってい

た。中学校でも様々な年代の人と話せる機会を作ってはどうか？（太田委員）

→現状、新型コロナの影響もあり外部の方が学校に来る機会がなかなかない。職場体験と防災学習ぐらいになっている。今後増やしていければ（亮）

○「たくましい体」養成プランについて

○「豊かな心」育成プランについて

【部活や運動系団体】

小学校では、少年団がたくさんあるが、中学生になると特別なチーム以外ほとんどない状況。小学校の時は、熱意をもって取り組んでいた子供たちの受け皿がない（芳次委員）

→現状では少年団でやっていたスポーツを部活で続ける生徒が多い。地域クラブはほとんどない（亮）

【長期欠席者】

以前、不登校生徒 50 名程という話があったが、その後減っているか？（芳次委員）

→2学期末、1年 10 数名、2年 10 数名、3年 20 名弱。今までは外部のふれあい教室に通う生徒が多かったが、まつば教室に来られる生徒が増えてきている。（亮）

→30 日以上欠席だと長期欠席者とカウントされるが、実際に全く来ていない生徒は数名。来られていない生徒・保護者とは連絡を密にしている。長期欠席でも受験できる高校や通信制の高校もある（玉木校長）

まつば教室から普通教室に復帰できた生徒は実際にいるか？（哲也委員）

→完全にという生徒はあまりいないが、特定の授業なら普通教室に行ける生徒は増えた。まつば教室には校内適応指導教室支援員が 1 名ついている。加えて、その時間担当の教員が入る。タブレットで教室の授業を聞く生徒もいる（亮）

長期欠席生徒は浜松市でどの位いる？（太田委員）

→今日はデータをもってきていないので即答できない（清水）

→当校は平均的な人数（校長）

→全く学校に来ていないの生徒は各学年数名。週数回は出席できる生徒も含めて 50 名である。（亮）

民生・児童委員が間に入ることも考えてほしい（熊谷委員）

→担任等が会えない場合は、スクールソーシャルワーカーが同行する場合や間に入る場合もある。（亮）

→児童委員との情報交換をコロナ禍ではあるが今年度 1 回行えた。家庭環境等踏み込んだ話ができる。（平原教頭）

【アンケートの設問】

「曳馬中の生徒であることに誇りをもっている」があいまいで、ぼんやりしている。（哲也委員）

→生徒の主観。具体的なことがわかる聞き方を工夫する（亮）

⇒頂いた意見をもとに改善策を考える（亮）

(3) 令和5年度学校運営基本方針の説明

議長の指示により、校長玉木から、資料に基づき説明があった。
委員からは以下の発言があった。

【共生】

協働センターまつりで曳馬中の生徒がボランティア活動をしてくれた。西部中では社協の地域活動である「家事ボランティア」に参加し、一人暮らしの高齢者宅のゴミ捨てや草取りを行っている。曳馬中でも高齢者のゴミ捨て（登校途中にゴミをゴミ捨て場まで持っていく）などのボランティアができないか？（芳次委員）

→登校中には難しい。やるなら登校前になる（玉木校長）

→学校内でボランティア担当の先生を作り、調整ということになると思う。ぜひ実現してほしい（芳次委員）

→ボランティアをやりたい生徒は一定数いるので他校から情報収集し、検討する（玉木校長、平原教頭）

→地域の行事を「大人と一緒にやる」ことが大切。浜松まつり、夏祭り、防災活動などを学生時代から一緒にやっていたら、必要性を理解し、大人になっても参加することにつながると思う（熊谷委員）

【学校運営基本方針】

運営方針をもとに取り組んで、長期欠席者が減っていくことが指標になるのでは。各学年1桁台になってほしい。小学生の子も見ているが、この子たちが進学してなぜ長期欠席になるのかと感じる。保護者も一緒に運営方針を理解し、取り組んでいく必要があるので、周知の仕方も課題（池村委員）

【教職員の負担減】

教育の情報化の推進によって実際に教職員の負担が減っているか？他市では、部活動を学校から完全に切り離す話が出ているところもあるが、浜松市はどうか（哲也委員）
→ICT活用で実際に教職員の負担が減るところまではまだ達していない。部活動を地域へ移す方向性は決まっているが、浜松市では部活動を指導したい教員も多い。部活動の受け皿をきちんと用意してから、移さないと混乱が生じるため、受け皿を準備して進めていこうという段階（玉木校長）

(4) 令和4年度学校運営協議会自己評価について

議長の指示により、鈴木亮から、資料に基づき報告があった

(5) 令和4年度職場体験等地域人材活用について

議長の指示により、鈴木亮から、次のように報告があった。

2年生の職場体験を3年ぶりに実施できた。1年生の地域防災の講話も実現した。来年度も総合的な学習の時間の計画を基に、地域人材の活用について協力をお願いしたい。

(6) 夢育やらまいか事業について

議長の指示により、教頭平原から、次のように報告があった。

予算全額について執行済み。

部活動横断幕作成費	52,602 円
職場体験に関する発送費	9,000 円
合計	61,602 円

(7) 令和5年度いじめ対策基本方針について

議長の指示により、校長玉木から、資料に基づき説明があった。

委員からは以下の発言があった。

実際にいじめは発生しているか？（芳次委員）

→実際にある。即時解決するものではないため、個別に丁寧に対応している（玉木校長）

いじめの種類は？言葉によるものだけではなく、暴力的なものもあるか？（哲也委員）

→暴力的なもの、金銭に関するもの、SNSに関するものもある。多かったのは、無視されるというもの。無記名のアンケートによるものなので、具体的な件数は把握できない。（玉木校長）

市営グラウンド周辺に、暖かくなるとたむろする若者がいる。

→北側の通りが暗い。自治会を巻き込んで街路灯を増設し明るくすると集まりにくいのではないか（熊谷委員）

→自治会、町内会で話をする（芳次委員）

(8) その他

- ・浜松市教育委員会より

来年度は学校運営協議会が3年目に入る。さらなるご協力をお願いしたい。

- ・協働センターより

協働センターまつりの中学生ボランティアへの協力御礼。

来年度も協働センターや地区社協の行事への中学生の参加へ協力していきたい。

当協議会で地域人材活用についての熟議が少ない。学校のアンケートで保護者や生徒の地域とのかかわりを問う項目があると中学生と地域との関わり方を見直している。

- ・来年度の学校運営協議会組織、日程等について

熊谷委員、高山委員、民生・児童委員の任期が満了のため委員も交代になる。

来年度のPTA会長が委員に加わり委員は9名となる予定。

来年度の日程については追って連絡する。

以上